

河川整備基本方針検討小委員会報告

(阿武隈川水系、番匠川水系、五ヶ瀬川水系)

●小委員会開催

平成15年11月5日

平成15年11月28日

●主な議論

○総論

- ・河川法が改正され、河川環境の整備と保全が河川管理の目的に加わったが、これを受けて河川整備基本方針への環境関係の記述の一層の充実化、明確化を行う必要がある。
 - 「1.(2)河川の総合的な保全と利用に関する基本方針」で治水、利水、環境の小見出しを設け、環境にかかる記載を明示するとともに、記述内容の充実を図った。
- ・河川整備基本方針の記述にあたっては、治水、利水、環境のバランスを十分考慮する必要があるのではないか。
- ・河川整備基本方針への個別詳細な記述が個別具体の河川管理上の制約や誤解に却って結びつかないように、基本的な方向性を記述すべきなのではないか。
 - 河川整備基本方針の記述内容のあり方について、今後、各河川の河川整備基本方針の策定を通じて、さらに一層の充実を図っていくよう議論していくこととした。
- ・超過洪水への対応を整理しておく必要があるのではないか。
 - 計画規模の洪水への対応のための施設整備に加え、超過洪水発生時の被害軽減についても十分考慮する必要がある、その旨を従来より記述していることの説明があった。

- ・基本高水を決定する際の「カバー率」の取り扱いを整理しておく必要があるのではないか。
 - 基本高水を決定する際に、計画対象降雨から地域的、時間的な異常降雨を棄却する手法を用いており、「カバー率」の考え方は用いていないことの説明があった。

○阿武隈川水系

- ・「平成の大改修」の連続築堤による下流への影響や、遊水地整備による下流の効果など、上中下流の全体をみすえた河川管理を行って行くべきではないか。
- ・盆地と狭窄部の連続した阿武隈川特有の洪水対策が必要なのではないか。
 - 遊水機能の確保や狭窄部での地上げ方式等の阿武隈川特有の治水対策について、河川整備基本方針本文に記述することとした。
- ・宮城県沖地震の発生確率が極めて高いことから、阿武隈川下流での堤防強化等の対策が急務ではないか。
 - 河川整備基本方針本文にその旨の記述を行うこととした。

○番匠川水系

- ・流域面積が小さく河口から源流までが近いため、上流の森林の大切さが地元でも認識されており、流域全体を見通した計画になるようにできないか。
 - 流域全体を見通した計画策定の必要性、地元での活発な森林保全活動などを河川整備基本方針本文に記述することとした。

○五ヶ瀬川水系

- ・大臣管理区間以外の区間の計画についても、記述を充実させるべきではないか。
 - 指定区間である支川の北川では、治水上、環境上の特性を踏まえた河川管理を行っていく必要があり、水系一貫の河川整備基本方針に、その旨を記述することとした。

河川整備基本方針検討小委員会名簿

(五十音順)

委員長	近 藤 徹	独立行政法人水資源機構理事長
委員	綾 日出教	(社) 日本工業用水協会顧問
〃	池 淵 周一	京都大学防災研究所教授
〃	伊 藤 和 明	防災情報機構会長
〃	岸 井 隆 幸	日本大学理工学部教授
〃	清 本 英 男	延岡商工会議所会頭 (五ヶ瀬川水系)
〃	楠 田 哲 也	九州大学大学院工学研究院教授
〃	黒 澤 正 敬	(社) 日本農業集落排水協会理事長
〃	越 澤 明	北海道大学大学院工学研究科教授
〃	小 松 利 光	九州大学大学院工学研究院教授 (番匠川水系・五ヶ瀬川水系)
〃	坂 本 弘 道	(社) 日本水道工業団体連合会専務理事
〃	澤 本 正 樹	東北大学工学研究科教授 (阿武隈川水系)
〃	谷 田 一 三	大阪府立大学総合科学部教授
〃	塚 本 隆 久	(財) 国際緑化推進センター理事長
〃	平 野 憲 司	番匠川流域ネットワーク事務局長 (番匠川水系)
〃	福 岡 捷 二	広島大学大学院工学研究科教授
〃	虫 明 功 臣	福島大学行政社会学部教授
〃	山 岸 哲	(財) 山階鳥類研究所所長
〃	吉 田 修 一	前福島市長 (阿武隈川水系)